

特定非営利活動法人 女性心理臨床ラボ 第2回オンライン研修会

心理職が現場の気づきを研究の言葉にすること-自分のための研究計画を立ててみる-



日時：2020年10月28日(水) 19時から21時まで(Zoom会議)

講師：笠井清登(NPO法人女性心理臨床ラボ正会員・東京大学大学院医学系研究科精神医学)

館野由美子先生(国家公務員共済組合連合会 虎の門病院心理部 臨床心理士・公認心理師)

内容：自分の臨床現場の気づきを言葉にして研究計画を立てるまでの簡単なレクチャーと実際の研究計画のためのワークシートを作成、質疑応答(オンラインですので、お子さん連れでも参加可能です。時間内入退出・ビデオオフ参加自由です)

参加費：3000円(メールにてお申し込み後に参加可否及び参加方法についてのご連絡を差し上げます)

参加資格：心理職(臨床心理士・公認心理師 性別不問です)

定員：30名

毎日クライアントさんに関り、面接や検査やコンサルテーションにいそしみ、勉強会に参加し文献を読み、スーパーヴィジョンを受け、家のこともしっかりやり…そんな忙しい現場の心理職のみなさま。日々の臨床は充実しているものの、そこでの気づきや発見を伝える手段がないように感じているのではないのでしょうか？でもそんなあなたが積み重ねた小さな気づきや驚き、喜びや悲しみは、あなたに身をもって教えてくれているクライアントさんから受け取る大切な贈り物ですね。

そこで本研修会では、しばらく研究から離れていた、もしくは研究が苦手だと感じていた臨床現場の心理職を対象に、自分の臨床場面でのリサーチクエストionsを言葉にして、研究計画書を書くということを試みます。さらに、今さら誰にも聞けない文献検索方法や統計がわからない、実は知りたい研究費の話、同じく倫理の話、さらに臨床をしながら研究職に就くということなど、他では聞きにくい質問やテーマを受け付けます。熱意をもちつつもお互い等身大で相談できる会を目指します。

臨床研究の多くは、自分がそこに巻き込まれている現象を外在化することだと言えます。私たちはみんな何か人生の疑問をもって臨床の道に入ってきたはずです。「なぜ人は生きるのだろうか」「なぜ生きていると苦しみを伴うのだろうか」「さまざまな試練には意味があるのだろうか」「なぜ自分にはこんなことができないのだろうか」などなど…答えの見つからない問いが繰り返されます。臨床を続けながら、私たちは毎日問い続けています。その問いは、自分自身の内側から生まれてきています。そのとき研究とは自分で自分を研究することではないのでしょうか。業績や研究のための研究ではなく、自分を生かすための研究を見つけてみませんか？

たとえば、職場の人間関係が辛い、理不尽に感じられる…臨床以外の「雑用」が多すぎて、自分を見失ってしまいうた…そんなときこそ研究をしましょう。女性のライフサイクルと研究を続けることは可能なのか…子育て中のときこそ研究をしましょう。臨床のできない人が研究するのは…？それではために自分で研究してみましょう。もうこの年で今更研究なんて…臨床研究に適齢期はありません。

研修会の中では実際に1名の方に話題提供としてご自分の研究計画書を提出していただき、当日検討することもいたします。ぜひ積極的にお申し込みください。事例研究も歓迎しますが、守秘義務に関しては十分ご注意ください。研修会終了後にも、論文投稿を目指して継続して関わってほしい方は、女性心理臨床ラボ HP 内のお問い合わせフォーム(<https://fpcl.jp/>)からお申し込みください。

講師はこれまで心理職の論文作成の指導を多く経験し、臨床現場の心理職がリサーチクエストionsを見出し言葉にして伝え、現場に生かしていくことの意義を実感してきました。なお本研修会は、投稿論文の雑誌受理や博士論文等の合格を保証するものではありません。

👉お申し込みは、こちらのフォームから(締め切り:2020年10月10日(土) 定員:30名)

<https://forms.gle/wHX4f9k54wbdE14g9>

NPO法人 女性心理臨床ラボ <https://fpcl.jp/> は、女性がライフサイクルにおける様々な選択肢を、主体性をもって選択できることを目指す、女性のためのカウンセリングルームです。